

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2010年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

2010

Introduction to the term end questionnaire results

Randolph H. Thrasher, President

The results of the term-end questions continue to be positive in all but one category. The student evaluations of both their teachers and their classes are quite high. All of these evaluations are 4.0 or higher. I'm glad to see that we continue to do a good job in these areas. However these results indicate that we have not yet been able to solve one long standing problem—the very little homework that the students report doing. The answers to question 15 indicate that most students spend less than 30 minutes a week doing preparation for their classes. This is most noticeable in the Hoiku and Sogokyoiku data, but the English department is only slightly better.

I think it is clear that the students are not going to master the content of their courses if they don't study outside of class. And since studying on your own is crucially important in life-long education, we are not doing enough to prepare our students for life beyond graduation. Each one of us must assign more homework and try to find ways to motivate our students to become independent learners.

2010年度前期・学生による授業評価

学長 Randolph H. Thrasher

今学期末の調査については、一つの項目を除いて昨年度に引き続き良い結果となっています。学生たちは教員と授業を極めて高く評価しており、値はすべて4.0以上となっています。これらの分野における評価が引き続き高いことは大変喜ばしく思います。しかし、まだ1つ、長期間抱えてきた問題をまだ解決できていないことも浮き彫りになっています。それは、学生の自習時間が非常に短いことです。設問15に対する回答が示しているのは、ほとんどの学生が授業の準備としての自宅学習に費やす時間を30分以下としていることです。これはとくに保育科と総合教育系のデータに顕著に見られ、英語科ではわずかですが上回っています。

授業の内容に関する学習は、自習をすることで大きな効果を得ることができます。また生涯学習という観点からも自学自習は極めて重要ですから、我々は学生たちの卒業後の生涯学習に十分な備えを授けていない、とも言えます。私たち教員一人ひとりが課題等を通して、学生たちを自律学習者と導く動機づけとは何かを探求していかなければなりません。

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会委員（2010年度）

Randolph H. Thrasher（委員長・学長）

城間 仙子（委員・短期大学部長・英語科長）

川西 康裕（委員・保育科長）

青野 和彦（委員・総合教育系主任）

金 永秀（委員・宗教部長）

内間 清晴（委員・図書館長）

高崎 正名（委員・キャリア開発部長）

山城 眞紀子（委員・教学部長）

上原 明子（委員・入試部長）

与那覇 明弘（委員・事務局長）

武村 朝吉（委員・企画推進課長）

執筆者

張本文昭（総合教育系）

作田真由子（英語科）

大山伸子（保育科）

以上

沖縄キリスト教短期大学
2010年度前期
学生による授業評価報告書

第1章

授業評価の概要

1 学生による授業評価の概要

2010 年度前期の授業評価アンケートを、同年 7 月（当該学期末に近い時期）に実施した。すべての開講科目クラスを対象とした。90 科目、161 クラスについて分析を行った。分析に投与された評価票は、4,051 件であった。評価は 5 段階方を採用しており、1 点を最低、5 点を最高の評価としている。

各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。以下、各設問に対する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。

Q1「先生は、学期始めに授業の目的およびこの授業で学生のなすべきことについて明確に説明しました」

「5」評価が 72%、「4」評価を加えると 91%であったことから、授業目的や概要の説明、授業ガイダンス等は適切に実施されていると捉えることができる。

Q2「先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」

「5」評価が 69%、「4」評価を加えると 89%であったことから、Q1「授業目的」と同様に、適切に説明がなされていると捉えることができる。

Q3「先生は、授業について熱意がありました」

「5」評価が 76%、「4」評価を加えると 92%であったことから、教員は十分な熱意を持って授業を実施していると学生から捉えられている。なお、17 の設問のうち、「5」の評価の割合が最も高いのが本設問であり、本学教員に対する評価として肯定的に受け止めて良いであろうと考えられる。

Q4「先生の授業は、とてもわかりやすかった」

「5」と「4」の評価を合わせると 81%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。一方で、「3」「2」「1」を合計すると 19%に達し、20%近くの学生が「わかりやすかったとは言えない」と感じている。このことは例年、似たような傾向が認められることから、教員は学生の多様化を鑑み、さらなる努力が必要と思われる。

Q5「先生の授業の準備はよくできていました」

「5」と「4」の評価を合わせると 89%であったことから、教材研究や準備等は適切になされていると考えられる。本設問に対する結果は Q3 とも共通する傾向が認められた。

Q6「先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました」

「5」と「4」の評価を合わせると 84%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。しかしながら、結果の分布は Q4 と共通する傾向にあり、さらなる努力が必要と思われる。

Q7 「先生の授業は、時間通りに始まり、時間通りに終わりました」

「5」評価が75%、「4」評価を加えると90%であったことから、授業時間管理がほぼ適切になされていると捉えることができる。

Q8 「授業でわからないことを質問する機会や工夫がありました」

「5」と「4」の評価を合わせると86%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。一方で14%の学生は質問の機会や工夫が十分でないと感じている。Q4、Q6 同様に、学生の理解度を上げるための特別な対応が今後ますます必要とされるであろう。

Q9 「先生は、授業を乱す行為(私語、携帯電話、居眠り、中座等)」に対して適切に対応していました。」

「5」と「4」の評価を合わせると85%であり、おおむね適切な対応を取っているものと考えて良いだろう。一方で15%の学生は教員の対応に満足していない。上記Q8におけるコメントとも共通するが、今後は授業環境、学習環境そのものの整備においても、更なる教員の努力が必要と思われる。

Q10 「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように勧めたい」

「5」と「4」の評価を合わせると82%であり、教員にとってはほぼ満足のできる結果であろう。

Q11 「私は、この授業に熱意を持って取り組みました」

「5」と「4」の評価を合わせると85%であり、教員同様、学生たちも熱心に取り組んでいると評価して良いだろう。

Q12 「私は、授業の学習にあたり、シラバス(講義要項・学習計画)を参考にしました」

「5」評価が48%、「4」の評価は21%、「3」は23%である。例年、評価平均が4.0前後であるのが本設問である。標準偏差が1.0を超え、回答にばらつきがあると捉えることもできるが、今回は設問項目の妥当性を指摘したい。現実的には、学生にとっては登録前における授業選択の資料として、また教員にとっては授業初回におけるオリエンテーションやガイダンスのための資料として運用されることが多く、本設問にある「学習」場面では資料としての意味が本来的にあるのか、という問いである。例年の傾向が変わらないことから、設問文を再検討する必要があると考えられる。

Q13 「私は、授業中、私語や携帯電話・中座など、授業を乱す行為をしませんでした」

Q11における結果と共通する傾向にあり、「5」と「4」の評価を合わせると86%であった。

Q14 「私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると82%であった。Q11、Q13と共通する傾向であった。

Q15 「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」

評価平均は1.91であり、他の設問と比較して、毎年最低の値を示した。「1」が39%、「2」が32%、「3」は17%であり、週あたりの学習時間は88%の学生は1時間以内という結果である。本学学生は授業時間以外において、あまり学習時間を設けていないと言える。

Q16 「この授業を全体的に評価してください」

平均は4.00でおおむね肯定的な評価が得られていると考えられる。「5」と「4」を合わせると72%であった。一方で「3」「2」「1」の回答は28%であり、改善の余地はまだあると思われる。

Q17 「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います」

教員に対する期待を示す項目であると捉えることができよう。「5」と「4」を合わせると74%、平均値は4.26であり、教員は学生の期待に応えられるような、日々の努力が求められている。

Q1授業の目的

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	20	.5	.5	.5
2	34	.8	.8	1.3
3	291	7.2	7.2	8.5
4	780	19.3	19.3	27.8
5	2919	72.1	72.2	100.0
合計	4044	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	4051	100.0		

Q2成績評価方法

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	33	.8	.8	.8
2	61	1.5	1.5	2.3
3	353	8.7	8.7	11.0
4	793	19.6	19.6	30.6
5	2806	69.3	69.4	100.0
合計	4046	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	4051	100.0		

Q3先生の熱意

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	23	.6	.6	.6
2	45	1.1	1.1	1.7
3	250	6.2	6.2	7.9
4	642	15.8	15.9	23.8
5	3085	76.2	76.3	100.1
合計	4045	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.1		
合計	4051	100.0		

Q4わかりやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	68	1.7	1.7	1.7
2	180	4.4	4.4	6.1
3	514	12.7	12.7	18.8
4	790	19.5	19.5	38.3
5	2493	61.5	61.6	99.9
合計	4045	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.1		
合計	4051	100.0		

Q5準備よい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	31	.8	.8	.8
2	67	1.7	1.7	2.5
3	361	8.9	8.9	11.4
4	697	17.2	17.2	28.6
5	2890	71.3	71.4	100.0
合計	4046	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	4051	100.0		

Q6理解興味工夫

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	43	1.1	1.1	1.1
2	100	2.5	2.5	3.6
3	450	11.1	11.1	14.7
4	807	19.9	20.0	34.7
5	2646	65.3	65.4	100.1
合計	4046	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	4051	100.0		

Q7時間どおり

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	28	.7	.7	.7
2	65	1.6	1.6	2.3
3	310	7.7	7.7	10.0
4	599	14.8	14.8	24.8
5	3044	75.1	75.3	100.1
合計	4046	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	4051	100.0		

Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	56	1.4	1.4	1.4
2	93	2.3	2.3	3.7
3	406	10.0	10.0	13.7
4	753	18.6	18.6	32.3
5	2731	67.4	67.5	99.8
合計	4039	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	4051	100.0		

Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	37	.9	.9	.9
2	64	1.6	1.6	2.5
3	493	12.2	12.2	14.7
4	807	19.9	20.0	34.7
5	2640	65.2	65.3	100.0
合計	4041	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	10	.2		
合計	4051	100.0		

Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	76	1.9	1.9	1.9
2	111	2.7	2.7	4.6
3	514	12.7	12.7	17.3
4	777	19.2	19.2	36.5
5	2565	63.3	63.4	99.9
合計	4043	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	8	.2		
合計	4051	100.0		

Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	22	.5	.5	.5
2	67	1.7	1.7	2.2
3	520	12.8	12.9	15.1
4	987	24.4	24.4	39.5
5	2448	60.4	60.5	100.0
合計	4044	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	4051	100.0		

Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	161	4.0	4.0	4.0
2	176	4.3	4.4	8.4
3	911	22.5	22.5	30.9
4	837	20.7	20.7	51.6
5	1955	48.3	48.3	99.9
合計	4040	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	11	.3		
合計	4051	100.0		

Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	24	.6	.6	.6
2	64	1.6	1.6	2.2
3	485	12.0	12.0	14.2
4	814	20.1	20.1	34.3
5	2655	65.5	65.6	99.9
合計	4042	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	4051	100.0		

Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	50	1.2	1.2	1.2
2	147	3.6	3.6	4.8
3	498	12.3	12.3	17.1
4	728	18.0	18.0	35.1
5	2610	64.4	64.5	99.6
合計	4033	99.6	99.7	
欠損値 システム欠損値	18	.4		
合計	4051	100.0		

Q15予習復習時間

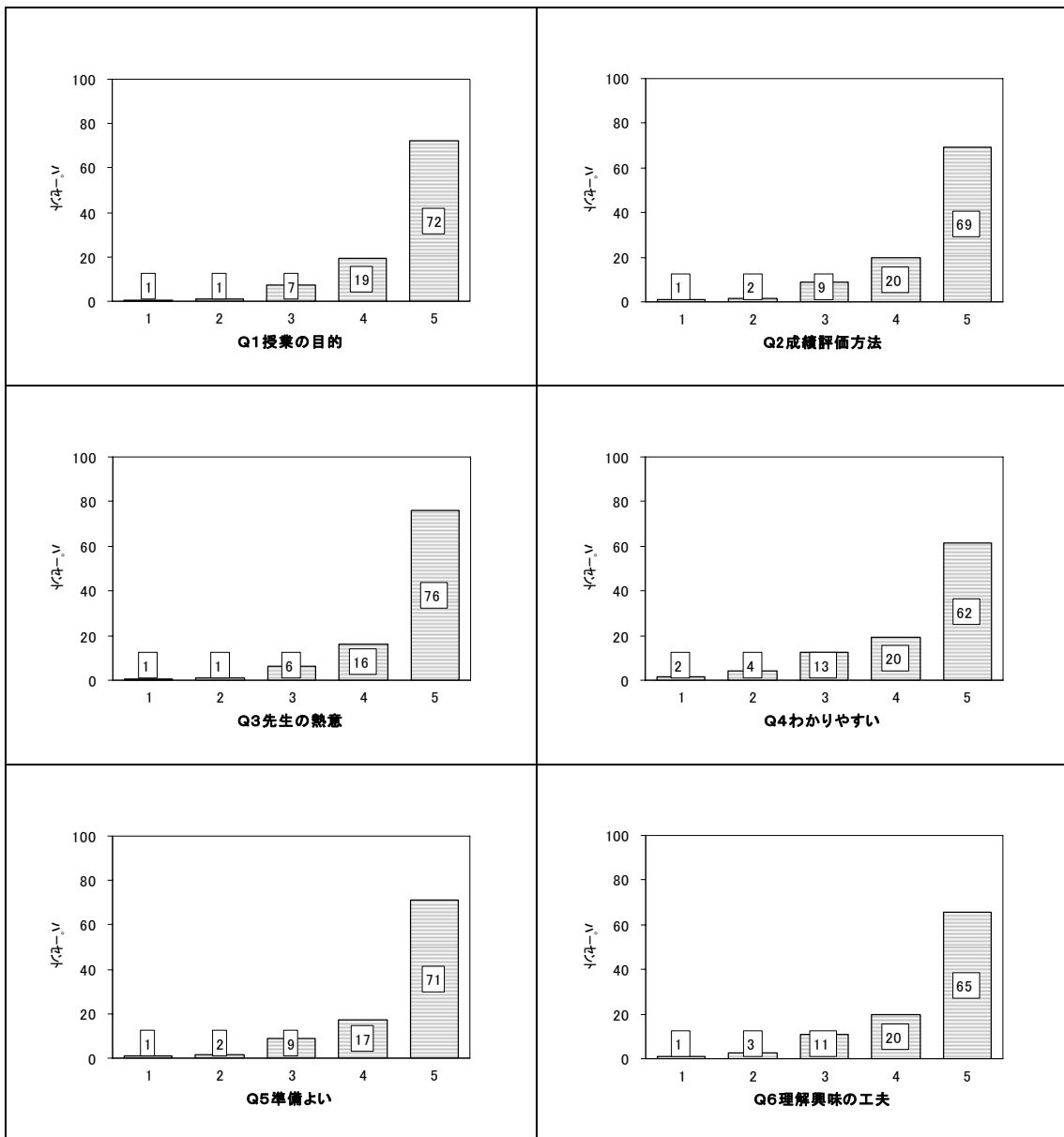
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1597	39.4	39.5	39.5
2	1279	31.6	31.6	71.1
3	687	17.0	17.0	88.1
4	150	3.7	3.7	91.8
5	95	2.3	2.3	94.1
合計	3808	94.0	94.1	
欠損値 システム欠損値	243	6.0		
合計	4051	100.0		

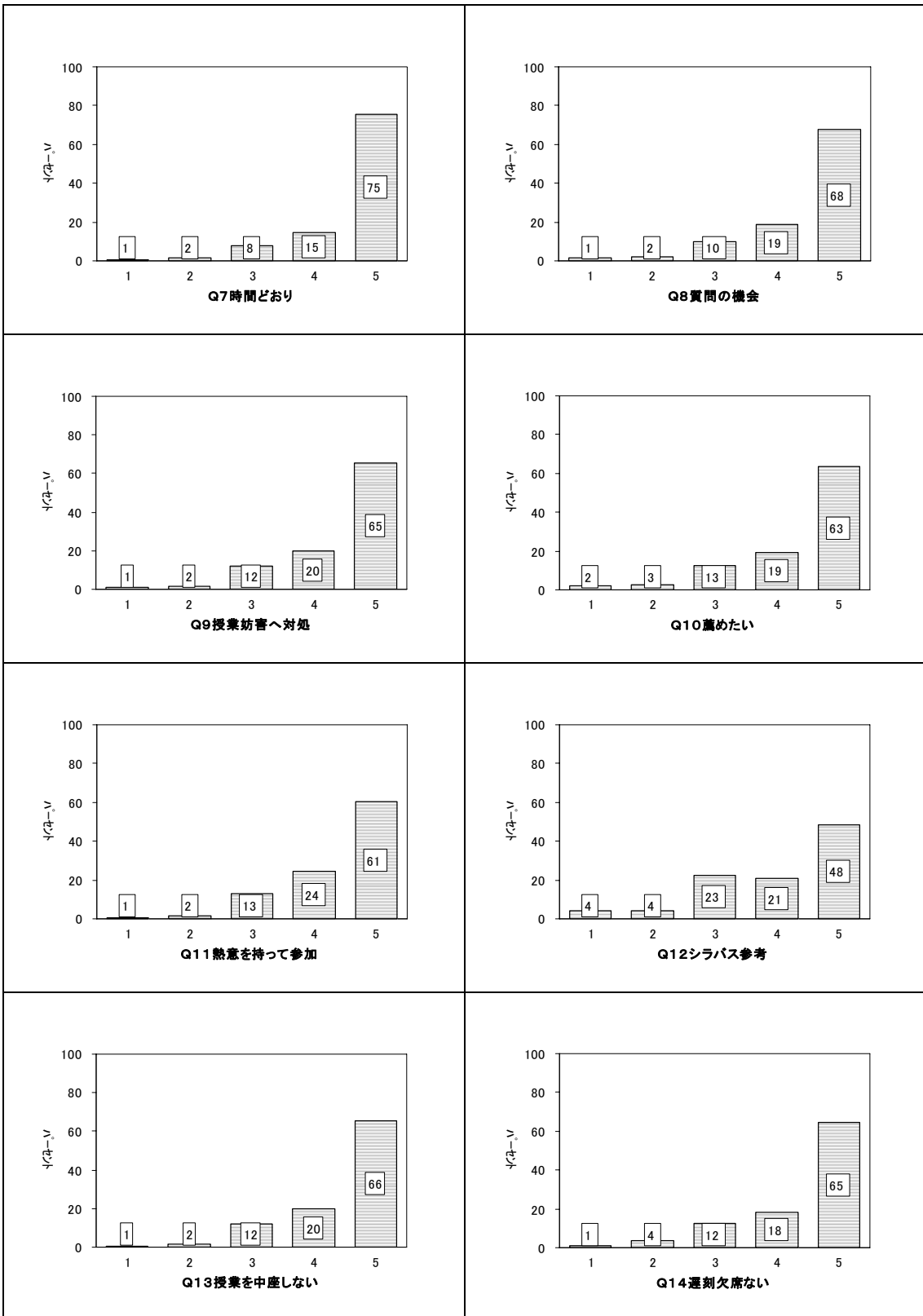
Q16全体的評価

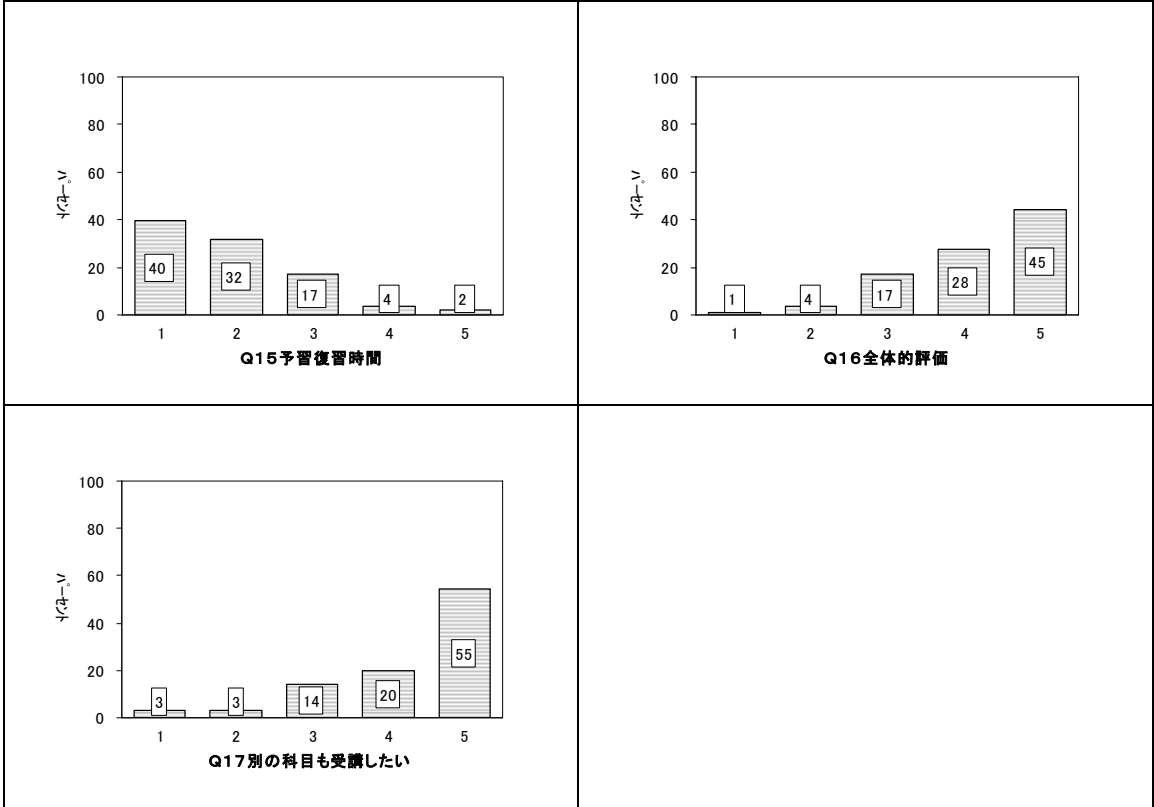
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 0	160	3.9	4.0	4.0
1	49	1.2	1.2	5.2
2	155	3.8	3.8	9.0
3	686	16.9	17.0	26.0
4	1112	27.5	27.5	53.5
5	1800	44.4	44.5	98.0
合計	3962	97.8	97.9	
欠損値 システム欠損値	89	2.2		
合計	4051	100.0		

Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
1	127	3.1	3.1	3.1
2	128	3.2	3.2	6.3
3	563	13.9	13.9	20.2
4	795	19.6	19.7	39.9
5	2207	54.5	54.6	94.5
合計	3820	94.3	94.4	
欠損値 システム欠損値	231	5.7		
合計	4051	100.0		







2 全体の評定結果

短大生全体の平均値、標準偏差等を求めたところ、17項目中16項目で平均値が4.00を超え、学生は概ね大学が提供する授業に対して肯定的に評価していると捉えて良いだろう。平均値が4.00に満たない項目はQ15「宿題や予習に費やす時間」についてであり、このことはこの数年来、変わらない結果である。他の項目と比較して特徴的な結果を常に示すこの項目については、教員らによる議論が必要だと考える。

教員への評価を示すQ1-Q10のみの平均値は4.52であり、教員や授業に対しては、概ね肯定的に評価されている。

学生の自己評価に相当するQ11-Q15のみの平均値は3.85であり、突出して低い値を示すQ15を除外した平均値は4.35であった。学生は予習や復習はしないが、それ以外に関しては肯定的に自己評価を下していると見て良いだろう。

回答のばらつきを示す標準偏差の結果に関しても、例年同様、Q12, 16, 17が平均値1.00を超え、この数年来、変わらない結果である。1.00に満たない項目についても、その傾向は例年あまり変わることがない。これらのことに対する解釈については、教員らによる議論が必要だと考える。

評価項目別評定結果（全体）

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	4044	1	5	4.62	.700
Q2成績評価方法	4046	1	5	4.55	.781
Q3の熱意	4045	1	5	4.66	.695
Q4わかりやすい	4045	1	5	4.35	.975
Q5準備よい	4046	1	5	4.57	.784
Q6理解興味の工夫	4046	1	5	4.46	.864
Q7時間どおり	4046	1	5	4.62	.753
Q8質問の機会	4039	1	5	4.49	.869
Q9授業妨害へ対処	4041	1	5	4.47	.836
Q10薦めたい	4043	1	5	4.40	.940
Q11熱意を持って参加	4044	1	5	4.43	.817
Q12シラバス参考	4040	1	5	4.05	1.114
Q13授業を中座しない	4042	1	5	4.49	.810
Q14遅刻欠席ない	4033	1	5	4.41	.926
Q15予習復習時間	3808	1	5	1.91	.987
Q16全体的評価	3962	0	5	4.00	1.242
Q17別の科目も受講したい	3820	1	5	4.26	1.044

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

全体的な傾向としては、ほぼ例年と同様であり、また英語科、保育科の傾向とも共通すると捉えることができる。

総合教育系の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	888	1	5	4.63	.644
Q2成績評価方法	888	1	5	4.58	.718
Q3の熱意	888	2	5	4.70	.598
Q4わかりやすい	888	1	5	4.43	.878
Q5準備よい	888	1	5	4.65	.673
Q6理解興味の工夫	888	1	5	4.52	.763
Q7時間どおり	888	1	5	4.72	.606
Q8質問の機会	886	1	5	4.51	.822
Q9授業妨害へ対処	885	1	5	4.39	.876
Q10薦めたい	887	1	5	4.44	.848
Q11熱意を持って参加	888	1	5	4.41	.805
Q12シラバス参考	886	1	5	4.04	1.092
Q13授業を中座しない	886	1	5	4.48	.798
Q14遅刻欠席ない	882	1	5	4.40	.938
Q15予習復習時間	835	1	5	1.89	1.047
Q16全体的評価	868	0	5	4.03	1.203
Q17別の科目も受講したい	834	1	5	4.26	.984

3.2 英語科の評定結果

Q15の「予習復習時間」以外の項目についてはすべて4.0以上の評価である。教員要因であるQ1～10の項目については、ほとんど4.5以上の評価を得ているが、Q4の「わかりやすい」が4.39とやや低い数字が出ている。教員の工夫がもう少し必要かと思われる。

3.3 保育科の評定結果

教員要因に関しては、Q3「教員の熱意」が4.73ともっとも高く、前年度も前期4.72、後期4.82と高い数値で推移していることから、教員の熱意に対する学生の評価が定着していることがわかる。また、Q1～Q9については、前年度の前期と比べ、すべてにおいて上昇しており、教員が指導法等を工夫しているものと推察できる。

学生要因としては、Q13「授業を中座しない」とQ14「遅刻欠席しない」は、高い数値であり、規律の良さが認められる。また、Q11「熱意をもって授業に参加」は4.53で、

前述した Q3「教員の熱意」4.73 に呼応する高い数値として評価してよいだろう。

Q10～Q17 は前年度の前期に比べ、Q15「予習復習時間」を除いてすべてにおいて上昇している。

極端に低い数値は、Q15「予習復習時間」の 1.77 である。前年度（前期 1.82／後期 1.72）と同様の状態が恒常化しており、学生の予習復習の習慣化を促す手立てが肝要となろう。

英語科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1248	1	5	4.59	.769
Q2成績評価方法	1250	1	5	4.52	.859
Q3の熱意	1250	1	5	4.53	.876
Q4わかりやすい	1250	1	5	4.25	1.095
Q5準備よい	1250	1	5	4.48	.906
Q6理解興味の工夫	1250	1	5	4.37	1.005
Q7時間どおり	1250	1	5	4.59	.826
Q8質問の機会	1247	1	5	4.41	.991
Q9授業妨害へ対処	1249	1	5	4.40	.903
Q10薦めたい	1249	1	5	4.29	1.080
Q11熱意を持って参加	1249	1	5	4.28	.918
Q12シラバス参考	1247	1	5	4.08	1.118
Q13授業を中座しない	1250	1	5	4.30	.941
Q14遅刻欠席ない	1249	1	5	4.02	1.088
Q15予習復習時間	1185	1	5	2.14	.968
Q16全体的評価	1227	0	5	3.86	1.342
Q17別の科目も受講したい	1202	1	5	4.19	1.159

保育科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1908	1	5	4.63	.677
Q2成績評価方法	1908	1	5	4.56	.755
Q3の熱意	1907	1	5	4.73	.581
Q4わかりやすい	1907	1	5	4.38	.928
Q5準備よい	1908	1	5	4.59	.740
Q6理解興味の工夫	1908	1	5	4.50	.802
Q7時間どおり	1908	1	5	4.60	.762
Q8質問の機会	1906	1	5	4.53	.800
Q9授業妨害へ対処	1907	1	5	4.56	.759
Q10薦めたい	1907	1	5	4.44	.876
Q11熱意を持って参加	1907	1	5	4.53	.731
Q12シラバス参考	1907	1	5	4.04	1.121
Q13授業を中座しない	1906	1	5	4.62	.690
Q14遅刻欠席ない	1902	1	5	4.68	.679
Q15予習復習時間	1788	1	5	1.77	.943
Q16全体的評価	1867	0	5	4.09	1.181
Q17別の科目も受講したい	1784	1	5	4.31	.985

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

授業評価の評言の量は、3項目ともに総合教育系科目は他学科の科目と比較して多く記述されている傾向が認められる。「改善点に関する記述」としては、「わかりにくいところがあった」「授業展開のペースが速い」「課題が多い」等が目立った。これらは教員として今後考慮すべき点である。

4.2 英語科の授業について

評価結果にも現れているとおり、担当教員の熱意や授業運営に関する工夫にたいして「授業の良い点」を挙げている学生が多い。オラルについては、もう少し少人数を望む声も聞かれた。改善の余地があると考えられる。

4.3 保育科の授業について

「1：授業の良い点」は73件あり、講義に関しては、「わかりやすい」が評価のポイントになっている。専門領域については、体験や事例を交えた内容を肯定的に捉え、演習領域については、「楽しい」がそれぞれ高い評価の理由になっている。全体的には、「教員の熱意」に対する評価が高い。

「2：改善して欲しい点」は37件あり、その内16件に「授業のスピードが速い」の記述が見られた。また、教員の言動や指導態度に対する記述が6件あった。入学して間もない段階で、高校までとは異なった授業の進め方に戸惑いを感じている様子がうかがえる。

「3：授業に対する感想等」は52件あり、社会福祉の法律や子どもの環境、ピアノ練習、絵本、手話などの記述の中から、高校時代とは全く異なる専門領域に対する興味や関心が表れている。また、しゃぼん玉、指けんぱんなどの色々な遊びを通して、「子どもにかえて味わうことができた」と喜びを率直に吐露している。

おわりに

全学科の教員要因の「熱意がある」に呼応して、学生要因の「熱意をもって参加」が高い評価となっている。一方で、教員要因の「準備よい」の高い評価に対する学生要因の「予習復習の時間」の数値は低い。

学生の熱意を意欲的な学業態度につなげるために、講義の狙いやテスト範囲を明確にすること、課題・提出物の与え方などを丁寧に説明する必要があるようだ。

高校と授業内容や生活環境が変化する中、このアンケート結果は、学生にとっても充実した2年間をいかに過ごせるかを見極める、重要なバロメータともいえよう。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

	評 価 欄				
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5	4	3	2	1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)				
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 秀	4 優	3 良	2 可	1 不可 0 わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1

科 目 名	クラス名 ()				
学籍番号*					男
学 年	1	2	3	4	女
所属学科	1 英語科		2 保育科		
	3 英語コミュニケーション学科				
	4 科目等履修生				
入試区分	1 一般入試		2 推薦入試		3 AO入試

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点																	
2. この授業に改善してほしい点																	
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。																	
4. 学長へ (聞いてほしいこと)																	